

## 2019年度 事業報告

社会福祉法人 新瑞福社会

定款及び事業計画に基づき、たんぼぼ保育園、こすもす保育園、さざんか保育園、ななくさ保育園、とうえい保育園、あさがお学童保育所、第2あさがお学童保育所、児童デイサービスたんぼぼ・放課後等児童デイサービスあさがお、障害児相談支援事業あさがおの経営・運営を行って来ました。

### 1. 新瑞福社会の目標

「女性の働く権利」と「子どものゆたかな発達」を保障する保育園づくりのスローガンのもとに

(1)多様な保育要求にこたえる保育園をつくります。

産休明け、乳児、長時間・延長、障害児、途中入所、一時保育、日祝保育、アレルギー食などの多様な保育要求にこたえます。

(2)保護者とともによりよい保育内容をつくります。

(3)地域の保育センターの役割を果たし、子育て支援をすすめます。

(4)健康で生き生きと働き、学び高まりあう職員集団をめざします。

### 2. 法人の主な取り組みについて

#### (1)新規事業

- ・2018年9月から進めてきたあさがお園舎（239.4㎡）が2019年11月に完成しました。
- ・さざんか保育園の隣地（204.95㎡）を2019年6月に購入し園庭を広げることが出来ました。
- ・こすもす保育園の園舎改築について名古屋市と協議し、2020年度事業として認められました。2020年5月末に仮園舎に引っ越し、6月から解体工事及び建設工事を開始。2021年3月中旬に完成予定。

#### (2)新型コロナウイルスによる感染症拡大防止について

2月24日発表された国の感染症対策に基づき感染症拡大の防止をしながら事業を行って来ました。

#### (3)運営について

- ・新人研修、中堅研修、全職員研修会、救命法、保育・給食のイロハ、わらべ歌・リズム等の研修を実施。あいち合研、愛保協研修、あい共連研修など外部の研修会にも積極的に参加して来ました。保育相談部の活動が始まって3年目の今年度は、離乳食や運動会のことなど11件の相談について意見交流をして来ました。
- ・安全な保育のため、事故・ヒヤリハットの事例検討会、各施設の安全視察、散歩マップの作成、あさがお新園舎の危険個所のチェック等を実施して来ました。
- ・防災会議を開催し、防災マップ作り、防災計画の検討、備蓄品の在庫確認等を実施して来ました。
- ・特殊検診の実施、労働安全衛生委員会の開催、産業医からの助言や指導を受け、職員の健康管理に努めて来ました。
- ・働きやす職場作りのため、職員の配置増、職員面談の実施、労働条件の改善等を進めて来ました。
- ・瑞穂区子育て支援連絡会に参加し、瑞穂区子育てネットワーク「さくらっこ」、子育てサロン「さくらひろば」、「赤ちゃん広場」に職員を派遣して来ました。各園では、子育て支援室開放・お庭であそぼう・赤ちゃんひろば・プールで遊ぼう・クリスマス会などの地域開放事業を行って来ました。
- ・法人ホームページで、事業内容、子育て支援事業の状況、財務状況、現況報告、定款などを公開。

各園で地域新聞を発行して来ました。

- ・とうえい保育園で第三者評価を受審しました

#### (4) 関係諸団体との連携

- ・名古屋市保育園連盟、全国民間保育園経営研究懇話会、愛知保育団体連絡協議会、あいち保育共同連合会、愛知県民間社会福祉施設経営管理者会議、瑞穂区保育団体連絡会、名古屋市障害児通所支援事業所連絡会、瑞穂区障害者自立支援協議会児童部会、瑞穂区児童デイ事業所懇談会等の団体・組織と連携。
- ・第 51 回全国保育団体合同研究集会（合研）が、8 月 4 日～8 月 6 日愛知で開催され、全国から約 7,200 人参加。法人から職員 123 人、保護者 73 人、その他 11 名、合計 207 人参加。

### 3. 本部及び施設の事業について

#### (1) 法人本部

- ・理事会を 7 回、評議員会を 4 回開催し、予算・決算、事業計画・事業報告等について審議・決定して来ました。
- ・職員管理・人事、会計処理・財務管理、施設整備、労働条件整備、関係法人・団体との交流等の業務を行って来ました。
- ・採用試験（正職）を 4 回実施。保育士 5 人、栄養士 1 人、学童指導員 1 人、相談支援員 1 人を採用。
- ・施設の運営状況の把握、各園運営委員会への参加、学童保育所「運営委員会」を実施。
- ・名古屋市の監査、愛知労働局の監査対応。

#### (2) たんぽぽ保育園

- ・産休明けから就学前まで定員 80 名。3～5 歳児の異年齢保育を基本に、0 歳児からの保育の交流を行ってきました。年間利用者数は 1,101 名。正規職員 22 名、臨時職員 70 名で保育を行ってきました。
- ・延長保育 7 時～24 時まで。産休・育休明け途中入所予約事業、障害児保育、アレルギー食、一時保育事業（年間利用者数 2,084 名）、24 時間緊急一時保育事業（年間利用者数 703 名）を実施。
- ・24 時間緊急一時保育は 7 月で丸 6 年を迎えました。利用人数は昨年度と比べて減少しましたが、6 か月未満の赤ちゃんの利用や、仕事や通院以外の利用も増え、子育て支援としての役割が広がっています。
- ・子どもたちの健やかな発達をめざし、保護者や地域とも連携しながら日々の保育を行ってきました。0 歳児から 3～5 歳児の異年齢クラスまで、昨年度に引き続き「あそび」を中心に実践してきました。
- ・週 1 回の職員会議で、実践検討、文献学習、保育のまとめ、方針の作成、保育の打ち合わせなどを行ってきました。保育相談部の研修を年間 4 回実施して職員全員で子どもの姿や保育を深めることができました。
- ・旧玄関のスロープを撤去、乳母車置き場を整備、にじの部屋に竹馬等の収納庫を設置等、順次改修をすすめています。
- ・地域新聞を年 4 回発行しました。地域開放は、子育て支援室開放・お庭で遊ぼう・赤ちゃんひろば・プールで遊ぼう・クリスマス会など年間 16 回行いました。保健所の親子教室に毎月 1 名職員を派遣してきました。
- ・クラス毎に年 5 回保育懇談会を実施し、保育園での子どもたちの様子を伝えるとともに、家庭での様子や保護者の交流をしました。あいち合研では職員が実行委員や要員として参加し、集会運営に携わることができました。

- ・保育園の運営、署名活動など保護者とともに行ってきました。保育署名は1万筆以上を集約し、目標を達成することが出来ました。保護者会と保育園共同企画として「むすび座」人形劇の公演を行いました。

### (3) こすもす保育園

- ・産休明けから就学前まで定員100名。年間利用者数1,278名。園長含め正職20名、臨職約30名で保育を行って来ました。
- ・延長保育7時～20時まで、産休・育休明け途中入所予約事業、障害児保育、アレルギー食、休日保育事業（年間利用者数788名）、地域子育て支援センター事業（登録者数89家庭95人）を実施。休日保育は、2019年度から定員を10人から15人に増やし、法人内4園の職員で保育体制をとっています。
- ・1981年4月、瑞穂区内の共同保育所3園の職員、保護者で就学前まで保育の実現のため、初日町にこすもす保育園をつくりました。39年たち、雨漏り、水漏れ、ガス管の破損など、老朽化が目立ってきたため、定員増（100名から110名）での園舎改築が決まりました。2020年5月30日に仮園舎に引越し、2021年3月中旬に完成予定です。園舎建替えに向けて、よりよい保育、よりよい保育環境を職員会議で論議し、設計図を考えてきました。
- ・2019あいち合研に実行委員として参加し、集会運営を担って来ました。法人内外の研修に積極的に参加し、職員会議内で報告し合い、共有してきました。全国保育問題研究集会に5歳児保育の提案を出しました。
- ・2019あいち合研に保護者含め約70名で参加。バザー・夏祭りを共に取り組んで来ました。保育署名は、1万筆の目標を達成しました。



### (4) さざんか保育園

- ・産休明けから3歳児まで定員40名。年間利用者数463名。正規職員13名、臨時職員18名で保育を行って来ました。
- ・7時から19時半までの延長保育、障害児保育、産休・育休明け途中入所予約事業、アレルギー食・宗教食を実施してきました。途中予約入所に加え0歳児の途中入所を受け入れて来ました。
- ・準乳専ならではのアットホームな雰囲気を大切に行事や交流をすすめて来ました。さざんか南隣土地（204.95㎡）を購入することができました。11月からは広い園庭で思いっきり走り遊んでいます。引き続き、魅力的な園庭をめざしていきます。
- ・週一回の職員会議で、実践検討、文献学習、保育のまとめ、クラス状況の交流、方針の作成、保育の打ち合わせなどを行って来ました。園内研修・法人内研修をはじめ、あいち合研など外部研修にも積極的に参加しました。
- ・備蓄・行事用、園庭遊具用の倉庫を2個設置。電話設備を更新しました。
- ・地域新聞を年2回発行しました。地域開放は、乳児が安心してあそべる空間・環境であること、予約がいない手軽さ、給食の試食ができるなど、地域の親子が集える場となって来ました。瑞穂区子育てネットワーク「さくらっこ」、瑞穂区保育協会主催の「赤ちゃん広場」に参加しました。

- ・夏まつり、バザー、保育署名部の活動を保護者と共に進めてきました。保育署名目標達成（5,355筆/目標 4,600）、保育大集会(東京)に参加しました。8月のあいち合研に保護者と共に取り組み、保護者11人を含め35人参加。
- ・保護者会と共に「うんどうかい・昼食会」を運営してきました。また、「むすび座人形劇公演」「瑞陵高校吹奏楽部演奏会」などを共に進めてきました。

#### (5) ななくさ保育園

- ・産休明けから就学前まで定員60名。年間利用者数811名。正規職員14名、臨時職員20名。
- ・延長保育7時～19時半まで、産休・育休明け途中入所予約事業、障害児保育、アレルギー食を実施。
- ・2015年4月、名古屋市の待機児対策である「賃貸保育園」（定員60名）として中根学区に開園しました。10年間の賃貸契約のため10年後の保育園運営が課題です。
- ・1歳から5歳の異年齢保育を始めて5年目。保育内容の充実に努め、行事など見直してきました。
- ・法人内研修、合研、保問研など外部研修に積極的に参加してきました。保育のまとめで子どもの姿から考え合い、1～5歳の異年齢保育の実践を深めてきました。
- ・年5回の保育懇談会を実施し保護者と共に子どもの姿を語り合ってきました。バザー・夏祭りを共に取り組んできました。保育署名は、4,500筆の目標を達成しました。  
あいち合研に保護者と一緒に取り組みました。保護者15名参加含め34名参加。8月にななくさ初の同窓会を開催しました。

#### (6) とうえい保育園

- ・産休明けから就学前まで定員120名。年間利用者数1,425名。公立の東栄保育園を引き継ぎ開園3年目。定員120名・正規職員21名・臨時職員28名で、障害児保育・産休明け保育・延長保育・入所予約事業・アレルギー給食など行っています。
- ・公立の保育を引き継ぎながらも、新しい行事や子どもの要求を実現していく保育の在り方など、法人の大切にしてきた子どもの主体性を育てる保育、仲間と一緒に要求を実現していく保育を探ってきました。行事は、公立の行事に加え、4歳児の「お泊り保育」、5歳児の「キャンプ」、公園（雨天の為、名女大の体育館でした）での「運動会」、「芋ほり遠足」など、新しい行事にも取り組みました。
- ・民間移管に伴う条件として、3年以内に第三者評価を受けることになっていたため、2019年6月から12月にかけて実施しました。
- ・個人懇談会、クラス毎の公開保育と懇談会・試食会を実施。キャンプやお泊り運動会など行事の前にはミニ懇談会を行い取り組みのねらいや様子を伝えてきました。
- ・夏祭りは、子どものステージやお神輿に参加し、職員が中心で夜店の出店を行いました。昨年度に続き、あい共連の幹事会に参加しました。保育署名、瑞保連の区交渉等、保護者会と一緒に取り組みました。
- ・6月に地域の老人会との交流を行い、7人のお年寄りが参加しました。地域開放の取り組みや地域新聞の発行など行ってきました。地域開放は13回行い、昨年度より22人多い178人の子どもが参加しました。地域新聞は3回発行しました。

#### (7) あさがお学童保育所・第2 あさがお学童保育

- ・子どもたちの豊かな放課後を保障するため、井戸田小、豊岡小、菊住小の3学区の児童を、あさがお学童保育所、第2 あさがお学童保育所の二つで受け入れてきました。どちらも40人を超え、今後もさらに増加する見込みのため新園舎完成後、複数支援の申請をしました。その結果2020年2月から、第一あさがお学童保

育所Aと第一あさがお学童保育所Bの複数の支援が認められ、第二あさがおとあわせて、3か所の学童保育所になりました。

- ・2019年度入所児童数は8,208人第2あさがお学童保育所8,772人でした。正職4名体制(あさがお2名、第2あさがお2名)を基本に、出席が多い場合や学校の長期休暇中は、必要に応じ臨時職員を配置しました。
- ・昨年度から始まった建て替え工事は順調に進み、鉄骨3階建ての園舎が2019年11月に完成し12月16日から新園舎での保育がスタートしました。第2あさがおの仮園舎として使っていた室は引き続き借りることにしました。
- ・三か所に分かれての仮園舎での保育は、今まで誰も経験したことのない状況でしたが、安全安心で快適な環境をつくるため、指導員の配置や子どもと活動の振り分けなど、さまざまな工夫をしてきました。
- ・毎月、役員会・定例会・保育懇談会を開催し保護者とともに運営してきました。区連協・瑞保連の区交渉への参加。夏祭り・区民祭りへ出店しました。瑞保連区交渉で長年にわたり要望していたあさがお西側道路の安全確保について、今年度末に注意を喚起する表示がされました。
- ・あいち保育共同連合会傘下の法人で、学童保育所を運営している法人との交流を行ってきました。

#### (8)児童発達支援たんぼぼ・放課後等デイサービスあさがお

- ・障害のある子どもたちの発達と豊かな放課後を保障するため、児童発達支援と放課後等デイサービスの多機能型事業所を、たんぼぼ保育園とあさがお学童保育所に併設して実施しています。
- ・2019年の年間利用数は、児童発達支援たんぼぼ381人、放課後等デイサービスあさがお1,547人でした。職員体制は、児童発達管理責任者兼管理者と児童指導員・保育士3名を基本に、出席が多い場合や学校の長期休暇中は、必要に応じ臨時職員を配置しました。
- ・昨年度から義務付けられた自己評価について改善を図り、今年度の自己評価をステップサポートやホームページで公開しました。
- ・児童発達支援たんぼぼでは一時保育の子どもたちと、放課後等デイサービスあさがおでは学童保育所の児童との交流を日常的、積極的にすすめてきました。一人一人の興味関心を大切にして好きなことを見つけ、一人でじっくりあそぶ時間と、みんなと一緒にあそぶ楽しさをひろげてきました。
- ・児童発達支援たんぼぼと放課後等デイサービスあさがおとの打ち合わせを毎月実施して、個別支援計画やアセスメントの内容の充実につとめました。昨年に引き続き隔月で、講師にあいち障害者センターの竹澤清氏をお願いして事例検討を行なってきました。
- ・役員会・定例会・保育懇談会を開催し保護者とともに運営してきました。瑞穂区自立支援連絡協議会児童部会の活動では、部長と事務局を担当してきました。2月に開催された地域福祉全国大会の分科会で、児童部会の取り組みについて提案しました。

#### (9)障害児相談支援事業所あさがお

- ・障害児相談支援事業は、障害のある本人およびその家族との面談を行い、発達と生活を保障するため障害児支援利用計画を作成し、必要な福祉制度につなぐ仕事です。相談支援専門員3人体制で2020年3月31日までに、124件の登録があり、110件の計画を立てました。
- ・学校や事業所などの関係者が集まる担当者会議を開催して、子どものことを語り合うことで、子どもの見方や支援の内容が豊かになり、願いにそった支援に結びつけることができました。